

営農支援情報

(第6号)

発行元：ホクレン北見支所 営農支援室

(アドレス：11einousien@hokuren.jp)

～営農のお役に立つ情報をお届けします～

●9月の営農技術対策について ～ 麦類

北海道農政部で「9月の営農技術対策」が策定されており、今月の重点項目として麦類では以下のように整理されています。

- 作付予定畑は、4年以上の輪作を行うとともに、排水対策を徹底する。
- は種前に必ず土壌 pH の確認を行い、低い場合には炭カル等の石灰資材で矯正する。
- 除草剤の適正使用により、雑草対策を徹底する。
- 越冬前目標茎数を確保するため、は種期に応じた適正なは種量を遵守する。

(以下抜粋)

5. は種期、は種量

種子は、必ず採種ほ産のものを使用し、は種作業は、土壌の適湿条件で実施する。早まきは種量が多すぎる場合は、茎数が過剰となりやすく、茎が軟弱になり倒伏しやすくなる。遅まきは生育が遅れ、収穫時の降雨被害に遭遇する危険が高まるとともに、登熟ムラや粒の充実不足により品質が低下しやすくなる。

また、早まきは、ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病、眼紋病及び条斑病などに罹病しやすく、遅まきはなまぐさ黒穂病の感染を助長する。

「きたほなみ」のは種（道東地域）

越冬前の主茎葉数が5.0～6.0葉となる期間で、3度以上の積算気温で470～580℃を確保できる時期である、9月19日～28日頃、内陸で秋の気象条件が比較的厳しい地域では9月16日～20日頃が目安となる。

倒伏を避けるため、越冬前茎数は900本/m²以下とする。これを達成する適期のは種量は、140粒/m²（千粒重40gの場合5.6kg/10a）である。やむを得ずは種が遅れる場合は、255粒/m²を上限に増量する。

6. は種深度

は種深度は2～3cmとする。は種深度が深いと2段根となり、初期成育が不良となる。均一に出芽・生育させるため、過度なロータリ耕を避ける。

右の『農産技術だより』第2号（一般社団法人 北海道農産協会 発行）にも「秋まき小麦播種のポイント」が解説されています。

さらに、オホーツク地区でも、近年発生が拡大しているコムギ縞萎縮病についても、まだ情報が不足しており想定範囲内ではありますが、pHの適正化（上げ過ぎないこと）、排水性の向上、適正時期の播種（早まき過ぎないこと）、連作の回避、緑肥利用を進めていくことが有効と考えられます。



●フロンサイド SC のなまぐさ黒穂病への登録拡大について 《生産資材課》

2020年春にフロンサイド SC の小麦のなまぐさ黒穂病に対する登録拡大があり、道内でなまぐさ黒穂病に対する高い効果が確認された茎葉散布薬剤としてはチルト乳剤とフロンサイド SC の2薬剤となりました。フロンサイド SC が高い効果を示すのは播種後～根雪前の茎葉散布で、雪腐病にも根雪前の登録があるため、根雪前に散布することでなまぐさ黒穂病と雪腐病の同時防除が可能になります。

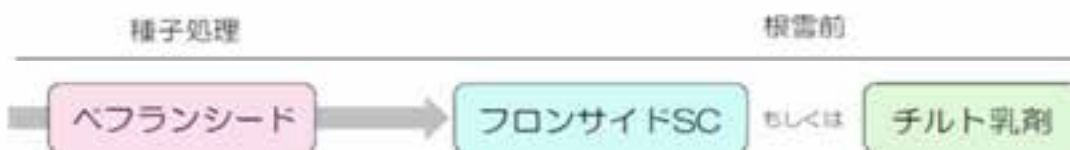
・小麦のなまぐさ黒穂病に対する防除薬剤について

1. なまぐさ黒穂病に対する主な登録薬剤（種子処理は除く）

登録内容一部抜粋(令和2年8月17日現在)

薬剤名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用方法	備考
チルト乳剤	750倍	60～150L/10a	根雪前	散布	道ガイドは小麦1～3葉期（ただし、根雪前）の掲載
	8倍	800mL/10a		無人航空機による散布	令和2年8月に登録拡大
フロンサイドSC	1,000倍	60～150L/10a	根雪前	散布	道ガイドには掲載なし

2. 防除例



地域の指遵に準じてご使用ください。

● 『オホーツク農作業安全フォーラム』が開催されました

オホーツク地区農作業安全運動推進本部（オホーツク総合振興局農務課・網走農業改良普及センター・中央会・ホクレン）の主催により、8/26 紋別市および 8/27 網走市において『オホーツク農作業安全フォーラム』が開催されました。

オホーツク地区では、昨年 12 月のオホーツク農協組合長会議において、令和 2～4 年度の 3 ヶ年を、特に「農作業事故ゼロ推進キャンペーン」期間と位置付け、啓発活動の活発化を図ることとしています。そのキックオフ的な取組みとして、当初は、3 月下旬の開催を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による北海道の緊急事態宣言を受けて、感染防止対策を徹底した中での今回の延期開催となった経緯にあります。

フォーラムでは、「これからの農業経営を支える労働安全の考え方」と題して、農研機構農業技術革新工学研究センター安全工学研究領域 安全技術ユニット長の積氏による講演が行われたほか、網走農業改良普及センターから農作業安全啓発資料の紹介がされました。

また、農業者を代表して、オホーツク農協青年部協議会の桑名会長および高野副会長により「オホーツク農作業事故ゼロ」の宣言が行われ、満場一致の拍手により採択されました。（宣言の内容は右の QR コードから）



● 標準作業手順書（SOP）作成の取り組み 《訓子府実証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場の乳牛部門は作業に携わる人数も多く、作業方法の統一（標準化）が課題でした。そこで、デンマークの機関が作った酪農に関する標準作業手順書（SOP）を日本版にした「デーリィ Navi」をひな型に、子牛管理の手順書を当農場の状況に合わせて作成し活用しています。

作成する過程では望ましい作業の進め方などをあらためて皆で確認し、共有することができました。

この内容はアグリポート 27 号（10 月発行）でも紹介する予定です。なお、「デーリィ Navi」は釧路農協連の HP のブログから入手できます。



● 収量センサー付きコンバインの圃場特性把握などへの活用 《訓子府実証農場 農畜技術課》

8 月 3 日、ホクレン訓子府実証農場の試験圃場において、きたみらい麦作振興会や JA きたみらいと連携のうえ、昨年に引き続き収量センサー付きのコンバインを使い、秋まき小麦（きたほなみ）を収穫しました。

昨年は収量センサーからのデータを使って収量マップを作成し、圃場内の部分ごとの収量が見える化できました（図 1）。また、センサーにより得られた収量を、同じ地点での手刈調査による収量と比較したところ、高い相関が見られました（図 2）。

今年収穫した圃場についても収量センサーで得られたデータを活用し、①収量マップを利用した圃場特性の把握や、②次年度作付品目の施肥検討などへの利用を進めたいと考えています。

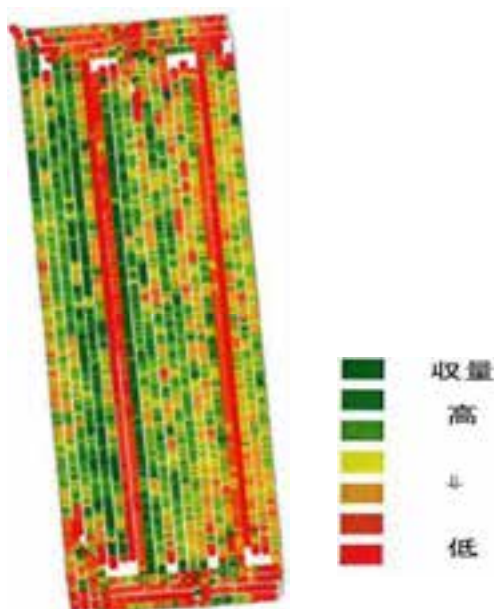


図 1. 収量センサー付きコンバインによる収量マップ
(2019 年調査)

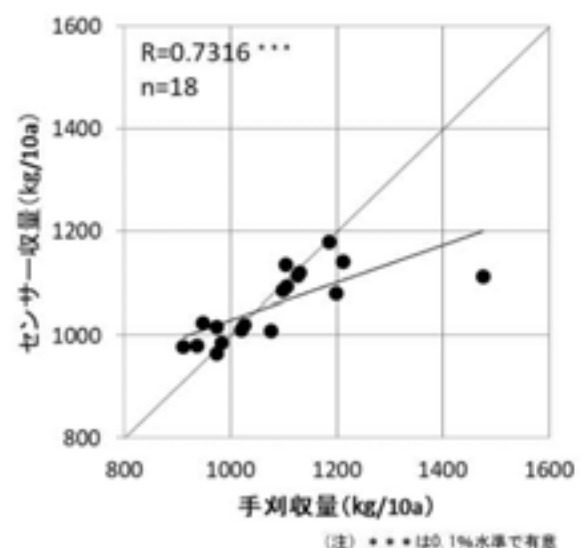


図 2. センサー収量と手刈収量との関係（2019 年）
(注) ***は0.1%水準で有意

内容に関してのお問合せやご意見につきましては、ホクレン北見支所営農支援室（担当：川口）までメールにてお願いいたします（11einousien@hokuren.jp）。